広報まつかわ　No.615

Matsukawa

Matsukawa town public relations magazine

11
2025

特集

この町で、農家として生きていく

松川町の“イマ”をお届け中！

特集

この町で、農家として生きていく

「くだものの里」として知られ、世帯の4分の1が農業に携わる松川町。しかし高齢化に伴い、離農する人も増えています。「農業は家業を継ぐもの」という印象もありますが、松川町にも果樹研修制度を活用し、新規就農した若者がいます。彼らはどんな思いで移住し、農業に取り組んでいるのでしょうか。今回は研修を経て就農した3人に話を聞きました。

ー農業をするにあたり松川町を選んだ理由は？

竹内　妻の母の実家が阿南町にあり、南信州の景色が以前からいいなと思っていました。愛知で開かれた移住相談会やJAの見学会に参加した当初は「ちょっと話を聞いてみよう」という程度の気持ちでしたが、松川町で果樹研修制度が新たに始まると聞き「このタイミングだ！」と決心しました。

原田　私もいろいろなタイミングが重なって松川に来ました。夫婦共に広島で犬の保護施設での仕事に就いていて、その後、主人の実家がある岡山県に移住。その時、農業法人で桃の担当をしたのが農業との出会いです。その法人は倒産してしまったのですが「農業を生業にしたい」という気持ちが固まり、祖母が木曽にいたことから長野を選択。竹内さんと同じく、研修制度に魅力を感じて移住しました。

竹内　正木くんは高校時代から松川に来るって決めていたんだよね。

正木　はい。農業高校時代に役場や農家の方の熱意に触れて「松川で農業をやろう」と決めました。基礎を学ぶために農業大学校へ2年間通い、そのあと松川の果樹研修生になりました。

ー研修を通じて得られたことは？

竹内　農業の知識ゼロだった私がここまでやってこられたのは制度のおかげです。1期生だったので体制が整っていない部分はありましたし、2年目に予定していた個人農家での研修がほとんどできないなどアクシデントもありましたが、農家の皆さんや地域の方々に助けていただきながらどうにかここまでこれました。

原田　私は「桃農家になる」と決めて移住したので、研修生時代も夏は桃、それ以外の時期はりんごで研修して、2年目からは自分の畑を持ち販売も始めました。今は他の果樹への挑戦も考えているので、勉強会を多く設けてくれているのも心強いです。

正木　僕は事業継承が前提だったので、研修2年目から継承先の農家で働きながら学びました。でも3年目にその農家の方が病で亡くなってしまい…。農作業は教えてもらっていても、販売や事務的なことはまったく分からなかったので苦戦しています。今は税理士さんや、農家さんのご家族に助けていただきながら進めています。

ー暮らしについてはいかがですか。

竹内　松川は「ちょうどいい田舎」と言われますがまさにその通り。スーパーや病院もあり、思った以上に

竹内彰悟（しょうご）さん 果樹研修生１期生

1988年生まれ、愛知県豊明市出身。夫婦共に介護職員として働いていたが「将来的に何か2人でできる仕事があれば」と話す中で農業に興味を持ち、2020年に松川町へ移住。

原田薫子（かおるこ）さん 果樹研修生１期生

1990年生まれ、東京都国分寺市出身。夫の実家である岡山へ移住し、農業法人で桃の栽培に携わる。農業を生業にしたいと決意し2020年に夫婦で松川町へ移住。桃薫（とうくん）農園を経営。昨年第一子が誕生。

正木幹朗（みきお）さん 果樹研修生2期生

2000年生まれ、愛知県豊田市出身。農業高校へ進学し、当初は動物に触れる仕事がしたいと畜産を志望していたが、果樹栽培の楽しさに惹かれ、松川町で事業継承することを決意。2021年に移住。

不便はありません。研修生同士で食事会を企画するなど交流しながら、横のつながりも大切にしています。

原田　東京で暮らしていた頃は、人や情報の多さに疲弊していたので、今の環境は自分に合っていますね。空き家をセルフリノベーションしながら暮らしていて楽しいです！公園や自然も多くて子育ての面でもいい環境です。

正木　愛知に比べて夏涼しいのが僕はありがたいですね。夜は星がきれいだし、お祭りや近所の交流も多くて、おすそ分けで野菜をくれたり。人の温かさを感じます。

竹内　移住者に慣れているのか、よそ者扱いされないのもありがたいよね。我が家は自治会に入ったけどみんな親切にしてくれます。

原田　私も妊娠・出産の時、周囲の方に助けていただいて人の温かさを感じました。

ー農業の魅力を教えてください。

竹内　「やった分だけ返ってくる」のが農業の魅力。人間関係の煩わしさやストレスもなく、僕の場合は趣味が農業なので基本的に毎日楽しいですね。

原田　農作物を直販する中で、リピーターのお客様がついてくれて励みになっています。地元に根ざした農家を目指すとともに、女性主体で農業もできるんだよということを伝えていきたいです！

竹内　女性ならではの視点ってありますよね。４期生にも女性がいますけど、ＳＮＳの活用法が上手で感心します。

正木　僕にとって農業の魅力は、自然の中で気持ちよく働けること。また、年齢関係なく相談できる人間関係が築けることです。困ったときに支えてくれる人がいる。それが松川町の農業の強みだと思います。

竹内　これは農業に限った話ではありませんが、一度は「やりたい仕事」に挑戦してみるといいですよね。合わなければすぐ切り替えればいいし、僕のように人生を賭けて挑めるやりがいに出会える可能性もある。挑戦してみる価値はあると思います。

産業観光課　農業振興係

木下倫信（みちのぶ）さん

果樹研修生たちは人生をかけてこの町に来ます。そんな研修生たちが、大きな失敗や後悔をしないよう、町やJA、ここに住んでいる農家の皆さんで支えています。果樹研修生たちはこの町に新しい風を吹かせてくれる存在だと思っています。彼らの活躍を、農業はもちろんですが、農業だけでなく、さまざまな場所で見られることを期待しています。

果樹研修制度についてのお問い合わせ
産業観光課 農業振興係 ☎34-7066

まつかわ通信 推しアゲ Vol.7

蓮田市で松川町をPRしてきました☆

松川町広報宣伝部　並木のり子

皆さん！朝晩はすっかり秋の陽気になりましたが、いかがお過ごしですか？

昨年に引き続き「第30回松川町文化祭」へも、趣味の陶芸作品を出品予定なので、ぜひ！ご覧くださいね☆

今年の夏は、松川町と友好姉妹都市の蓮田市より、はすだ広報大使でアニソンシンガーYURiKAさんに「第32回清流苑まつり」を盛り上げていただきましたが、なんと！8月の「第36回はすだ市民まつり」では、同じくはすだ広報大使として並木のり子も呼んでもらうことができました！多くの方で賑わうステージで松川町のPRはもちろん、歌って盛り上げてきましたよ♪

もう、にゃんたぶぅの時から長くお世話になっているので、蓮田市の皆さんは松川町をずいぶんご存知で、よく声をかけてくれて本当に嬉しいんです！中には、松川町を訪れてくれた時のお話をしてくださったり、リンゴの季節になると取り寄せてくれる方もいっぱいいて本当にすごい！小学生の交流会も毎年楽しそうですし、蓮田市さんとの仲はずっと続いて欲しい。そのためにも引き続き、橋渡し役になれるよう頑張りますね！

蓮田市のマスコットキャラクターはすぴぃの「はすぴぃお誕生会2025」に続いて、11月には「雅楽谷の森フェスティバル」などありますので、良かったら皆さんもタイミングが合えば、友好姉妹都市の蓮田市へいらしてみてください。

わたし、松川で果樹農家しています

果樹研修生のコラム　No.3

果樹研修生　乾 真緒

みなさま、こんにちは！3回目のコラムになりました、果樹研修生の乾真緒と申します。今月もよろしくお願いします。

今回は11月号ですが、私が原稿を書かせていただいているのは9月下旬になります。いや～、一気に涼しくなりましたね。もう、ちょっと寒いくらいですね。大阪人、暑さには耐性がありますが、寒さにはとても敏感です。すぐ長袖ヤッケを引っ張り出してきました。皆さんも気温の変化、お気をつけくださいませ。

しかしながら、私の一番好きな季節、秋がやってきたのはとても嬉しいことです！！松川に住む方々は、「もう四季は無くなった、春と秋なんてほぼない」とおっしゃる方もいますが、私からすると松川なんてまだまだ秋感じまくりです。果物が次々と収穫時期を迎えて、美味しい果物をたくさん食べられます。私が好きな梨はやっぱり美味しいし、シャキっと美味しいりんごもあらよあらよとお店に並びます。トンボもたくさん飛び始めてちょっとぶつかるし、松茸情報なんかも耳にします。どこからともなく金木犀の香りがして、こんなところに金木犀があったのかと気付かされます。そして一番好きな芋！！道から見える誰かの畑にさつまいものツルが見えると、思わずさつまいものことを考えてはよだれを垂らしてしまいます。勝手にすみません。秋、最高です!!

今年の1月時点では、私は無事に秋を迎えているだろうか、私が管理させていただいている果物たちは無事に出荷されていっているだろうか、ずっと心配でした。それが、今は9月で、私の畑の梨、豊水の収穫ももう終盤を迎えています。毎朝、譲っていただいた運搬車にコンテナをのせて、スピードが出ず朝から迷惑ですが、なるべく人通りの少ない道を選んで家から畑まで通っておりました。梨は運ぶのにとても重くて1人での収穫はなかなか大変でしたが、数日間、大阪から来てくれた家族の応援もあり、なんとか終わりが見えてきました。畑で収穫していると、近くの梨の先輩農家さんが、同じく運搬車で移動していきます。毎回、目を合わせては、『頑張りましょうね！』といった気持ちで手で合図を送りあいます。自分は本当に農家さんの仲間入りをしたんだなぁと改めて感じる瞬間です。なんだかそんな嬉しさも噛み締めつつ、浸りたい気持ちをそっと抑えて生き急ぎながら梨の収穫に励んでおりました。一方的に梨の消費者であった時の自分では考えられないような梨の思い出がたくさんできて嬉しい2025年の夏－秋でした。皆さんはどんな夏－秋を過ごされてますでしょうか。また今月も農作業される方はご安全に！あったかくしてくださいね！では。